



とうきょうすくわくプロジェクト活動レポート

「運動あそび」から広がる世界(1歳児・第1回)

しおどめ保育園京急蒲田駅前では、東京都の「すくわくプログラム」を通して、子どもたちが創造力をのびのびと発揮できる活動を続けています。今年、子どもたちの「体を動かすことが大好き!」という気づきから、「運動」をテーマにした探究活動を展開しました。室内でものびのびと動ける環境を整え、子どもたちの感性と体の発達を育む取り組みが続きました。



活動スケジュール

- 8月 感覚あそびや運動あそびの楽しさを体験。
- 9月 素材や難易度を変え、前回の挑戦を発展。
- 10月 全身を使って多様な動きを体感。
- 2月 これまでの経験をふり返り、いろいろな動きを組み合わせ
て自由を楽しむ。

第1回「運動遊び」1歳児

活動の流れは、単なる“運動あそび”にとどまらず、子どもが自分の体を理解し、どう動けばいいかを考える「探究のプロセス」そのものでした。

活動のための工夫と環境づくり

子どもたちが安心して挑戦できるよう、下記の素材や遊具を準備しました。

- 手作りジョイントマット
- バランスストーン
- センサリーマット
- ウェーブバランス平均台
- タイニークライマー

それぞれの素材の質感・高さ・揺れを変え、子どもたちの五感とバランス感覚を刺激します。マットの感触を手で確かめたり、ストーンの上に登ってみたりと、活動はまるで「小さな実験室」のよう。



子どもたちの姿から見た“学び”

活動中、子どもたちは目を輝かせながら何度も挑戦を重ねました。「このマットが好き!」と、気に入った感触の上を何度も歩く。手のひらで素材を確かめながら「ざらざら」「ふわふわ」と言葉にする。バランスストーンに登る時には、手をついて重心をとりながら、転びそうになっても再挑戦。その姿は、単に“遊んでいる”のではなく、自分の体をどう動かせばうまくいくかを、自然に試行錯誤している姿でした。保育者がそっと声をかけると、子どもは自分のペースで確かめ、できた時には全身で喜びを表現します。まさに「感じる・考える・挑戦する」の連続。



先生たちのふり返り

- ・手や足の裏で様々な素材に触れたことで、それぞれの素材の違いを感じているようだった。
- ・感覚遊び、運動遊びに興味を示し、自発的に挑戦する姿が見られた。
- ・どうしたらバランスストーンの上に登れるか試行錯誤しながら挑戦し、自身の体の使い方を知るきっかけとなった。
- ・様々な場所に登ったり、ジャンプしたり、踏んだりするなど、普段の生活ではなかなか体験できないことを遊びを通して経験することができ、のびのびと活動する姿が見られた。

遊びが“探究”に変わる瞬間

動くことが好き」というシンプルな興味から、子どもたちは世界を広げていきました。保育者のまなざしに支えられながら、子どもたちは“身体を通して学ぶ”豊かな時間を積み重ねています。このプロジェクトは、「遊び」と「学び」を行き来しながら、子どもたちの探究心を大切に育む実践でした。その日々の中には、これからの保育をより豊かにする多くの気づきがありました。